

# Economic Indicators

発表日：2020年7月20日(月)

## 貿易統計(2020年6月)

～各国の経済活動再開を受け輸出が前月比で増加、輸出の持ち直しは続く見込み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
19年	7月	▲ 2,539	▲ 1,082	▲ 1.5	▲ 1.1	1.4	10.1	5.7	▲ 5.0	6.6	9.4	0.9	8.3
	8月	▲ 1,522	▲ 1,040	▲ 8.2	▲ 11.8	▲ 5.9	▲ 3.5	▲ 1.5	▲ 8.9	▲ 6.1	▲ 3.0	▲ 3.3	▲ 4.1
	9月	▲ 1,291	▲ 406	▲ 5.2	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 4.0	3.7	▲ 6.0	6.7	▲ 1.0	8.8	8.1
	10月	112	▲ 934	▲ 9.2	▲ 14.7	▲ 4.4	▲ 6.7	▲ 8.4	▲ 7.1	▲ 6.1	▲ 7.6	▲ 10.3	▲ 7.0
	11月	▲ 884	▲ 1,736	▲ 7.9	▲ 15.6	▲ 5.0	▲ 9.7	▲ 10.3	▲ 2.7	▲ 8.1	▲ 1.4	▲ 10.6	▲ 8.5
	12月	▲ 1,591	▲ 1,895	▲ 6.3	▲ 4.8	▲ 1.9	▲ 11.4	▲ 7.4	0.5	1.2	▲ 5.0	2.5	0.5
20年	1月	▲ 13,151	▲ 1,807	▲ 2.6	▲ 3.6	▲ 1.6	▲ 8.9	▲ 9.1	▲ 1.5	▲ 1.7	▲ 19.9	1.2	0.3
	2月	11,066	3,667	▲ 1.0	▲ 13.9	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 9.7	▲ 0.9	▲ 17.3	▲ 11.1	▲ 8.5	▲ 25.0
	3月	72	▲ 2,921	▲ 11.7	▲ 5.0	▲ 11.2	▲ 15.9	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 2.5	▲ 1.8	▲ 2.6	▲ 2.6
	4月	▲ 9,312	▲ 9,567	▲ 21.9	▲ 7.1	▲ 21.3	▲ 36.9	▲ 27.7	▲ 11.8	1.5	4.2	▲ 0.2	5.6
	5月	▲ 8,382	▲ 5,857	▲ 28.3	▲ 26.2	▲ 27.3	▲ 49.4	▲ 34.8	▲ 11.4	▲ 14.5	▲ 22.8	▲ 26.3	▲ 8.7
	6月	▲ 2,688	▲ 4,239	▲ 26.2	▲ 14.4	▲ 27.1	▲ 47.0	▲ 33.0	▲ 17.8	▲ 0.8	▲ 12.7	▲ 6.3	0.0

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○各国の経済活動再開を受け輸出が前月比で増加に転じる

財務省より発表された6月の貿易統計によると、貿易収支は▲2,688億円の赤字(コンセンサス:▲119億円の赤字、レンジ:▲5,349億円の赤字～+2,500億円の黒字)となり、コンセンサスを下回る結果となった。輸出金額は前年比▲26.2%(コンセンサス:同▲24.6%、レンジ:同▲27.2%～同▲19.8%)、輸入金額は同▲14.4%(コンセンサス:同▲17.6%、レンジ:同▲22.6%～同▲8.1%)となり、輸出入ともに前年比で2桁台のマイナスが続いた。また、4-6月期でみると輸出は前年同期比▲25.3%、輸入は同▲16.0%と、新型コロナウイルス感染拡大を受け、4-6月期の輸出入は大幅に落ち込んだ。

品目別にみると、輸出については、自動車(前年比▲49.9%)、自動車の部分品(同▲52.3%)などの大幅な減少が続いている。輸入については、原油価格の低迷を受け原油(同▲71.8%)の大幅なマイナスが続いたことや自動車(同▲69.2%)などが輸入の減少に寄与した。

季節調整値でみると輸出金額は前月比+1.4%、輸入金額が同▲1.8%となり、5月から輸出は小幅に増加、輸入は減少した。それを受け、貿易収支は▲4,239億円の赤字と5月(▲5,857億円の赤字)から赤字幅は縮小した。

6月は世界各国での経済活動制限の段階的な解除を受け、5月から輸出は増加に転じた。また、輸入についても、原油価格の低迷を受け金額ベースでは前年比で2桁のマイナスも、数量指数でみると前年比▲0.8%とマイナス幅を大きく縮めている。7-9月期以降、輸出入は持ち直すと予想する。

### ○実質輸出は前月比+3.8%、経済活動再開を受け欧米向けを中心に増加に転じる

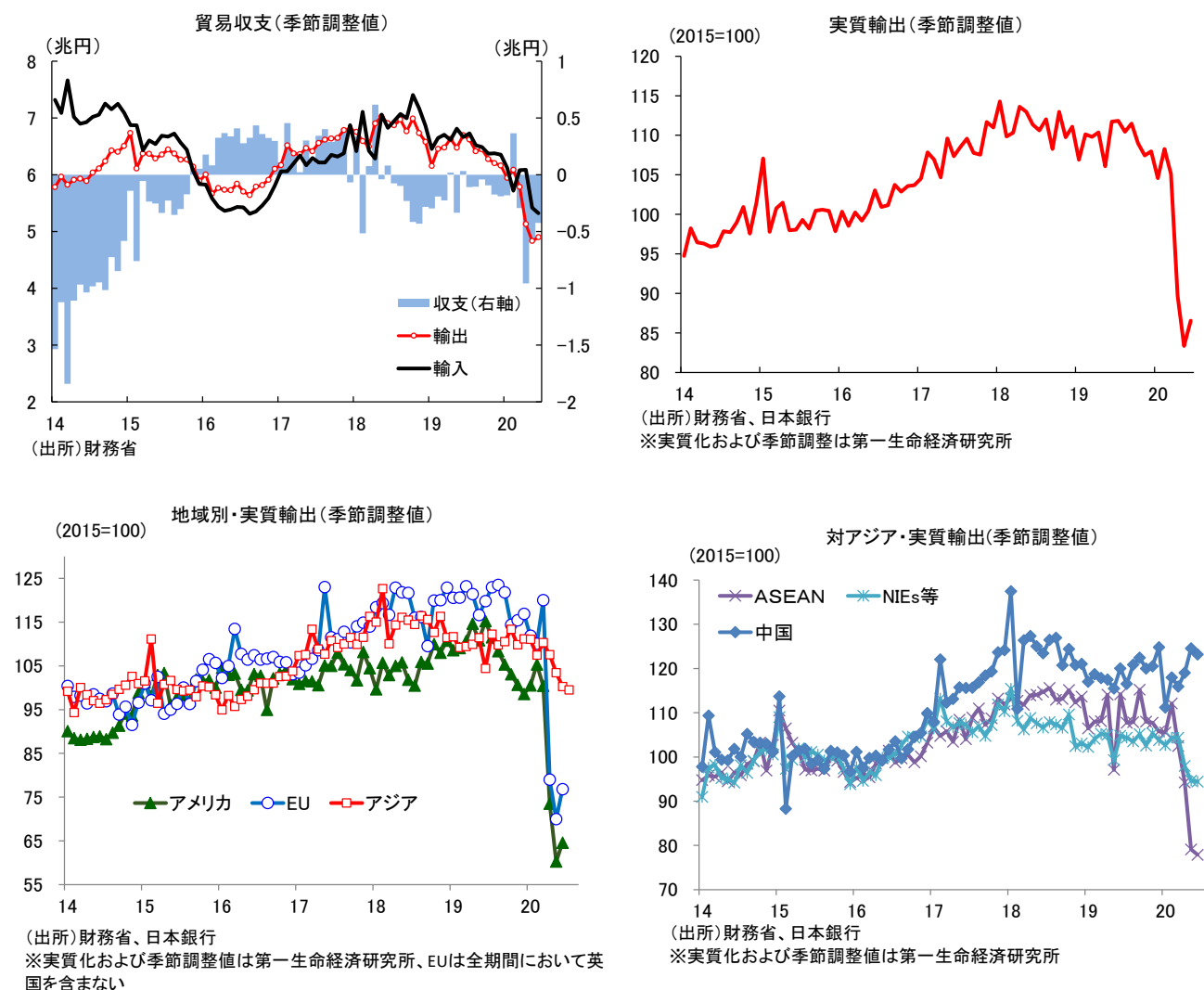
為替などの価格変動の影響を除いた6月の実質輸出(実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)は、前月比+3.8%(5月:同▲7.1%)となった。自動車等の輸送用機器(同+5.1%)や一般機械(同+0.7%)が5月から増加に転じた。

国、地域別にみると、米国向けが前月比+7.2%、EU向けが同+9.7%と、輸送用機器、一般機械を中心に4、5月の落ち込みから増加に転じた。アジア向けは同▲0.7%と小幅に減少、電気機器、化学製品を中心に減少した。中国向けについても同▲1.1%と増加は一服し減少に転じた。各国での経済活動再開を受け、5月を底に6月の実質輸出は増加に転じた。

### ○7－9月期以降輸出は持ち直しが見込まれるも、感染拡大前の水準に戻すには時間を要する

6月の貿易統計は、各国で経済活動が段階的に再開されたことを受け、輸出が前月比で増加に転じた。一方、輸入については、原油価格の低迷を主因に前月比で減少が続いた。

欧米などを中心に世界各国で経済活動再開は進んでおり、7月以降も輸出は持ち直しが続くとみられる。また、対中国の輸出入はほぼ前年並みの水準に持ち直しており（輸出：前年比▲0.2%、輸入：同+0.8%）、今後も輸出入を下支えするだろう。とはいえ、新型コロナウイルス感染拡大による各国経済の落ち込みは大きく、輸出入の急激な回復は困難であるとみられる。また、アメリカなど新規感染者数の増加が続いていることや米中関係の悪化など、先行き不透明感は依然として強い。7－9月期以降輸出は持ち直しが見込まれるも、4－6月期の落ち込みを取り戻すには至らず、感染拡大前の水準に戻すには時間を要する見込みだ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。